

義太夫

コロナ禍と義太夫協会

義太夫協会会長 原道生

明けましておめでとうございます。本年も
よろしく願い致します。

と、例年の通りのご挨拶を申し上げたので
すが、今回の場合、いつもとは違って、どこ
か収まり工合が悪く、今の自分の気持ちにそぐ
わない表現のように思われてなりません。も
っともそのような違和感は、おそらく私一人
に限っていることではなく、かなりの方々に共
通しているところなのではないでしょうか。

もちろん、そのわけはといえば、お察しの
通り、昨令和二年のほぼ全体を通じて、これ
まで全く未知の存在であった新型コロナウイルス
スへの対応に追われ続けてきた上に、今な
お世界中が、そうした不安な状況下から脱け
出せないでいるという非常事態にあることに
よって、もたらされたものに他ならないとい
うことができるでしょう。

けれども、もしも多くの専門家たちがいう

ように、今後は、根絶することの困難なこの
コロナウイルスと共存しながら生きてゆくと
いうことが、私たち人類にとつての恒常的な
あり方になると考えられるのだとしたら、む
しろ私たちは、いたずらに焦燥感に囚われる
ことなく、できるだけ速やかにその状況に順
応し、新しいその環境下での穏やかな文化的
生活を営むことを心がける必要があるのでは
ないかと考えます。

○

新年早々、話がすっかり脱線してしまつて
申しわけありません。この辺で、話題を義太
夫協会関連の事柄に戻すことに致しましょう。

先にも少々触れましたように、令和二年の
二月頃から広く蔓延し始めたコロナ禍の影響
を受けて、協会自体、あるいは正会員個人の
演奏活動に関しても、多くの中止・延期を
余儀なくされるといふ事態が生じてきたこと
は、既にご承知のことと思われまふ。そして
また、それらの具体的な諸事例についてのご
報告は、公演部の手によって、後の頁に掲載
されておりますので、ここでは触れることを

義太夫協会会報 第111号

令和3年1月1日

一般社団法人 義太夫協会 発行

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町 3-1-6

日本橋永谷ビル 210

Tel. 03 (6265) 1880

Fax. 03 (6265) 1881

<http://www.gidayu.or.jp>

致しません。

ただ、そのような非常事態の中にあつて、
本協会では、正会員および事務職員の皆さん
の方、当を得た対応の努力により、さいわい、
私の知る限りでは、ご来場のお客様方をも含
めて、感染その他、関連する諸被害に遭われ
た方もおられないようですし、また、九月以
降の現在に至る再開後の諸活動に際しまして
も、行き届いた慎重な配慮によって、つつが
なく事態が進められているということも、い
ささか手前味噌の感がしなくてもありません
が、有難く嬉しい事柄としてご紹介しておき
たいと存じます。そして、これらの点に関し
ましては、私見によれば、今後の、いわゆる
「ウィズ・コロナ」の時代における伝統芸能
の継承という、本協会にとつての大事な使命
に対する有意義な体験の貴重な蓄積として、
高い評価が与えられてよいものと思われまふ。
以上、こうした本協会のあり方が永続され
ることを念じつつ、併せて、皆様方の本年の
ご多幸をお祈り致す次第です。

◆編集部より◆

会報第百十一号は、本来、令和二年七月十五日
発行予定でしたが、新型コロナウイルスの感染
拡大に伴い、次々と演奏会も中止となり今後の
見通しも立たない中、やむを得ず発行休止の判
断をいたしました。会員の皆様にはご迷惑をお
かけしまして申し訳ございません。



『仏果を得ず』
三浦しをん 著
双葉社



『星と輝き花と咲き』
松井今朝子 著
講談社



『渦 妹背山婦女庭訓
魂結び』大島真寿美 著
文藝春秋

企画を立てて

毎月の公演にあたり、我が公演部では、それぞれの季節や行事にちなんでの演目を候補にあげ決定してゆきます。昨年のNHK大河ドラマが『麒麟がくる』と発表された時は迷うことなく『絵本太功記』に（二条城配膳・

妙心寺・尼ヶ崎）。二月は合格祈願の思いを込め『菅原伝授手習鑑』筆法伝授・車曳・寺子屋。やがて春を迎える矢先に、新型コロナウィルスに打ちのめされ、とうとう半年という長い期間公演中止に追い込まれました。

九月には人間国宝・竹本駒之助の出演で『鎌倉三代記』より三浦別れの段を、高綱物語も盛り込み再開がはたされました。

十月は「文芸作品と義太夫節」と銘打って、大島真寿美氏がほれ込んだお三輪の『妹背山婦女庭訓』杉酒屋の段、松井今朝子氏の日本初アイドル小説より『本朝廿四孝』十種香の段、三浦しをん氏の『仏果を得ず』より『仮名手本忠臣蔵』勘平腹切の段と繰り広げられました（各氏の著書名など、写真をご参照下さいませ）。

今後とも部員一同知恵をしぼります。また、会場でのコロナ対策による御不自由をおかけしますが、御協力お願い致します。

（公演部 竹本綾之助）

コロナ禍の定期公演

公演部では、オリンピックイヤーにあやかつて、昨年の定期公演を（多少こじつけでしたが）オリンピック種目に因んだ演目で企画していました。

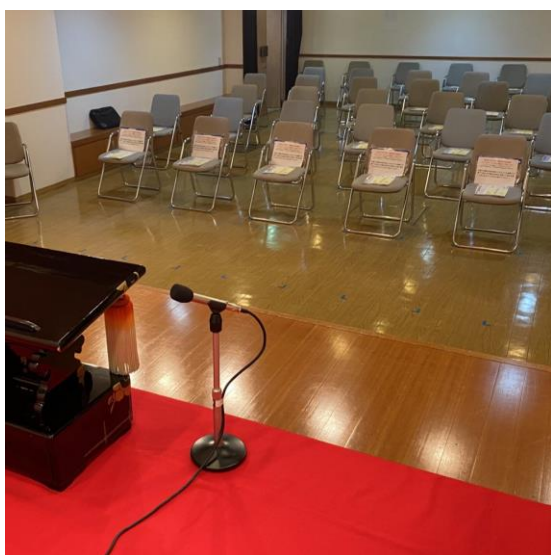
しかしコロナウイルスの蔓延、それに伴う緊急事態宣言の発令により、三月二十日の定期公演は中止となり、オリンピックも延期、秋までのほぼすべての義太夫関係の公演が中

止となりました。

その後、定期公演の安全な再開を目指し、リモート会議なども取り入れながら必要な対策を話し合い、再開は九月からと決定いたしました。また公演数が激減したため十月、十一月は月二回の変則公演とし、今月も二回公演の予定となっています。

具体的なコロナ対策としては、

- ・舞台上、稽古場での密を避けるため、景事や掛け合いの演目を減らす
- ・定員は今までの約半分とする
- ・ご予約のお客様にはお名前とご連絡先をお聞きし、事務局から感染症対策や注意事項を記した手紙を送る
- ・金銭のやり取りをなくすため、チケット代は事前振込とする
- ・チラシは事前に用意し座席に置いておく



9月公演の舞台・客席の様子

・受付で検温、消毒、マスク着用等をお願いします

・舞台と客席の間隔を四メートル開ける
・最前列のお客様にはフェイスシールドを着用して頂く

・休憩時間を含め十分な換気をする
・楽屋の手伝いの人数を最小限とする
・お客様とのお挨拶を遠慮させて頂く等を実施しております。

この状況がいつまで続くかわかりませんが、公演に安心してお越し頂けるようできる限りの対策をとっていく所存です。

今後とも何卒ご協力の程、お願い申し上げます。
(公演部 鶴澤弥々)

総会と役員選挙の報告

二〇二〇年八月十七日(月)、ビジョンセンター日本橋会議室において、通常総会が開催されました。今年は、新型コロナウイルスの影響で例年より大幅に遅れての開催となりました。

当日は左記の議案が付議され、いずれも承認されました。

- 第一号議案…二〇一九年度事業報告
- 第二号議案…二〇一九年度決算報告
- 第三号議案…二〇二〇年度事業計画
- 第四号議案…二〇二〇年度収支予算

●役員選挙結果報告●

昨年は二年に一度の役員改選の年に当た

り、今回はすべてを郵送投票で実施しました。
新役員(役職別 本名五十音順)

代表理事…原 道生

理事…上田悦子(竹本駒之助)

高橋孝子(竹本越孝)

立花繭子(鶴澤津賀寿)

林ミチヨ(竹本土佐子)

丸山あかね(鶴澤寛也)

柳瀬信吾(竹本葵太夫)

祖先祭について

毎年、秋に行っている祖先祭ですが、令和二年は例年のような形の開催を見送ることとなりました。

令和二年中に、代表理事と事務局長で回向院に墓参をしてまいります。

かるた大会開催

昨年一月十一日、豊川稲荷文化会館三階にて、「新春 義太夫かるた大会 新年会プラス」を開催しました。お客様方との親睦のため、普及部が企画したものです。

「いまごろは半七さん」など、義太夫節の詞章を題材としたかるたを源平戦で取り合う形式で、白熱した戦いが繰り広げられました。

かるた終了後には、新年会として参加者による懇親会が開かれ、楽しいひとときを過ごしました。

義太夫教室 第七二期・七三期

第七二期義太夫教室は、コロナ禍により昨年三月二日の卒業発表会開催が危ぶまれましたが、ぎりぎりの判断で開催に踏み切り、無事卒業演奏が行われました。演奏の合間に修了式も行われ、卒業生の晴れ晴れとした笑顔が印象的でした。

今回の会場、文化シヤッターBXホール(文京区)は初めての利用で、幕がないなど心配もありましたが、使い勝手はおおむね好評でした。



卒業演奏(上:太棹メドレー、下:『仮名手本忠臣蔵』裏門の段)

続く第七三期は、五月九日から入門コースを開講予定でしたが、新型コロナウイルスの流行により中止となりました。その後、実践



語りコースでは、講師・受講生の間に特製の
アクリル板を設置



三味線の指導は受講生の近くに寄るため
講師・助手がフェイスシールドを着用

コースは九月五日より開講しています（語り講師・竹本越孝・竹本越京、三味線講師・鶴澤三寿々）。語り・三味線とも受講者を五名に



原道生会長（右）より賞状を受け取る駒佳（中央）
左は師匠の駒之助

竹本駒佳 新人奨励賞受賞

限定して、アクリル板・フェイスシールドなどを活用し感染予防に努めています。異例の形式での開催ではありますが、受講者の皆さんは大変熱心に参加され、少人数ながら活気に溢れた教室となっております。

竹本駒佳（竹本駒之助門下）が、昨年十一月二十日のお江戸日本橋亭公演にて、新人奨励賞受賞記念として『伽羅先代萩』より政岡忠義の段を語りました。

今回八か月遅れの開催となりましたが、この間多くの方から温かい励ましを受け、それが何より嬉しく励みになったといえます。駒佳は福岡出身。短大進学のために上京し、

部活で国劇部に入部して、初めて伝統芸能に接したそうです。義太夫との出会いは、当会の一身体験教室で、講師は現師匠の駒之助。すぐに個人稽古をお願いし通い始めるも、体調を崩し家庭の事情もあり、止む無く実家に帰る事になったそうです。しかし諦めきれず仕事を見つけ上京し、再び師匠の許に。今日まで長い道程でしたが、努力を重ね此度の晴れの日に繋がりました。

当日は、尊敬する師匠に見守られ授与式に臨んだ駒佳。「この日を一生の宝として歩んで行きたい」という駒佳に、これからも温かい応援を宜しくお願い致します。

文化芸術による子供育成総合事業

「文化芸術による子ども育成総合事業」二種の公演（主催：文化庁、製作：（有）古典空間）が今年度も実施されました。「語ってみよう！義太夫節！」（竹本越京・竹本京之助・竹本寿々女、鶴澤三寿々・鶴澤賀寿・鶴澤弥々）と「三味線ナビ」（鶴澤津賀榮・鶴澤賀寿）。新型コロナウイルスに対して万全の感染対策を施し、ワークショップ実施校を減らす、体験内容の変更、密にならないよう衣裳をつけての舞台発表をやめる代わりに参加児童・生徒全員の氏名を「口上」に盛り込む、などプログラムも再考し、現状で最善の内容を関係者一同で模索しました。

意外に苦労したのがマイクの受け渡し。一旦誰かが使用したら次の人に渡す前にカバー



豊竹嶋太夫師

◆ 訃報 ◆

を交換するという原則を徹底するため、二本のマイクの行き先を検討するのは難しい作業でしたが、公演の内容を見つめ直すきっかけにもなりました。この時期に生の演奏に触れるのは本当に嬉しいと、各回とも大好評でした。
(鶴澤賀寿)

人形浄瑠璃
文楽座の太夫
で、重要無形
文化財各個認
定保持者(人
間国宝)の八
代豊竹嶋太夫



「語ってみよう！義太夫節！」公演より

師が、昨年八月二十日に逝去されました。享年八八歳でした。

一九四八年に十代豊竹若太夫に入門、五四年に四代豊竹呂太夫、六八年には八代豊竹嶋太夫を襲名し、その後四代竹本越路太夫の門下となりました。九四年には切場語りとなり、二〇一五年に人間国宝に認定されました。艶のある声と情のある語りで、多くの観客を魅了しました。

長年、当協会の技芸員に御指導をいただくとともに、一六年に引退後は当協会の正会員として若手技芸員の指導にも多大なご尽力をいただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

◆この度の豊竹嶋太夫師のご逝去、心よりお悔やみを申し上げます。

もう七十年近く前になりますが、私が竹本春駒師に連れられて十代豊竹若太夫師(当時呂太夫)の元にお稽古にうかがいました時、一年先に入門されていた嶋太夫師(当時呂賀太夫)に初めてお会いしました。その後、共に四代竹本



2015年人間国宝認定後の
「豊竹嶋太夫を祝い励ます会」
にて、嶋太夫師と駒之助

越路太夫師の門下となり、本当の兄弟のような気持ちで過ごしてまいりました。

後になってお聞きした話ですが、内弟子の時は芸の修行に加え、洗濯や子守りをするのがつらくて、よく公園で泣いていらしたと。厳しい修行時代をご一緒に経験した嶋太夫師が亡くなられて、心寂しい思いでいます。

嶋太夫師が育てられたたくさんのお弟子さんたちが、これからしっかりと芸を引き継いでいってくださることと思います。本当にお疲れ様でございました。
(竹本駒之助)

日本素義会会長 菅野昌行氏

昨年七月四日、菅野昌行氏が脳梗塞で急逝されました。享年八三歳でした。

知人との待ち合わせの前に立寄ったデパートで倒れ、救急車で病院に運ばれたのが六月十七日。一時はお話が出来る程になるも、その後急変して意識が戻らないまま、永眠されたそうです。



日本素義会にて
三味線は鶴澤津賀寿

五月に開催予定であった素義会は、感染症予防のため中止となり、三月のOB会が最後のご出演でした。

菅野氏は、ご自身が語られるだけでなく、当会の特別会員として、長きに亘りご後援下さいました。又上野広小路亭等の若手の会にも必ずお見えになり、若手の良き理解者でもありました。

義太夫をこよなく愛し、皆に愛された菅野さん、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

◆この度、貴君の訃報に接し、私自身お話のしようがない程のショックです。つい此の間、久方ぶりに杯を交わしたいと意気投合したばかりなのに。同じ年であった長兄の重雄君、次兄の光雄君とも親しく、福島の実家に遊びに行ったこともありました。貴君の勤め先が私の自宅と近かったことがあり、いろいろ御縁がありました。

義太夫節の普及に力を入れられ、素義会の公演が鳥越神社の白鳥会館で定着したのは、貴君の努力のお陰と思っています。私の弟子も参加させて頂き、いい雰囲気の下に舞台が勤められたと喜んで報告してくれます。義太夫協会も七十周年を経て、若い人が増えたことは大変嬉しいですが、貴重な人材を失ったことが辛いのです。あの世へ行って、古い懐かしい仲間に義太夫の一コマでいいから聞かせてやってください。皆さん喜びますよ。私も先が見えている、と感じることがありますが、コロナに負けず、頑張ります。

(竹本弥乃太夫)

義太夫協会公式ユーチューブチャンネルを開設！

昨年七月に義太夫協会公式ユーチューブチャンネルを開設いたしました。三月から定期演奏会が中止になる中で何かお客様にお届けできるものをと、広報部WEB班で制作に取り掛かりました。

番組内容は過去の定期演奏会の動画と、九月に演奏会が再開されてからは公演の予告動画も配信しています。

第一弾として、二〇一七年十二月十六日紀尾井ホール公演より『仮名手本忠臣蔵』九段目 山科閑居の段(出演：竹本駒之助、鶴澤津賀寿)を配信しましたところ、再生回数が一千万を超え大変ご好評をいただいています。今後も配信を続けてまいりますので、ぜひチャンネル登録とご視聴をどうぞよろしくお願い申し上げます。

また正会員では、野澤松也、鶴澤津賀寿、鶴澤寛也、鶴澤津賀花等が個人のユーチューブチャンネルを開設しています。



義太夫協会公式
ユーチューブチャンネル
<https://www.youtube.com/c/義太夫協会>

アートにエールを！

コロナ禍：我々は舞台が奪われ、稽古に外出することもできなくなりました。

そんな中、リモート演奏、という新しいジャンル？が現れました。各々が自宅で動画を撮って、複数で編集して合わせるのです。

以前、福島の支援で中学校に行ったグループでこれをはじめ、「アートにエールを！」の企画を聞き、応募しました。

原点に帰って、福島で演奏した、宮澤賢治作、メンバー下野戸亜弓作曲の「ざしきぼつこの話」を、新たに動画用にアレンジ。イラストを竹本京之助に描いてもらいました。

これをきっかけに、星野源さんの「うちで踊ろう」や国歌シリーズなどを続けていきます。コロナに負けず、前向きに可能性を追いつけていきたいと思っています！(鶴澤津賀寿)



アートにエールを！ ちーむD
邦楽がたり「ざしきぼっこ」
ユーチューブチャンネル ちーむD
https://www.youtube.com/channel/UCI_QSr_dWPgQD8hnttaPAbgQ
写真左から、下野戸亜弓・藤舎千穂・大和櫻笙・鳳聲千晴・鶴澤津賀寿
お揃いのTシャツは、京之助のぼっこちゃんイラスト

エールのかたち

新年早々不謹慎かと思いますが、限りある命を生きる人間への最終的なエールは「いつかは死ぬということを受け容れて生きる」ではないかと常々思っております。

ですが「アートのエールを！」に自分が企画作成した動画が採択された後に、他の媒体に寄せた文章を読み返してみると、自分は何も理解していなかったことを思い知らされます。

「頑張ろう」「意味がある」といった言葉は、それらに対して「不可」「否」の状況にある人にとっては苦痛でしかない、ということを思い知ったのは、昨年七月、ようやく頂いた仕事の打ち合わせの前日に、突然の発熱で参加を見送った時のことでした。

結果的に発熱は一日で治まり、前後二週間で接触した人の誰にも体調異常はありませんでしたが「どんなに気をつけていても熱が出たらおしまい」という想いからか、以降一日寝て過ごすような日が多くなり、これがいわゆるコロナ鬱か、と実感した次第です。

チエーホフの短編『賭け』で、賞金を拒否して行方をくらました法律家が、書物で読んだのと違い人生は魅力的だった、生きるためにやはりその金が必要だと言って戻ってくるという件は、著者自身によって削除されましたが、これこそが人生の真実「今を喜んで生きよう」まさに「降るまではうけあいます(笑)」

(歌舞伎義太夫 三味線 鶴澤慎治)

リモート歌舞伎出演記

思いもかけぬコロナ禍によって、歌舞伎公演は三月の初日が明くことなく中止。いつになったら再開できるか見通しの立たぬままに日を過ごした。

六月になり、「制約だらけの世の中でも何らかの形で作品を世に出したい」という熱情から企画が練られ、リモート配信による歌舞伎作品が出現した。

筆者はまず「図夢歌舞伎(ずーむかぶき) 忠臣蔵」に竹本補曲・演奏で参加した。密回避のため、限られた空間、限られた期間で、趣旨に沿った画面を完成させるのに、粘り強い俳優の工夫・映像スタッフの技術が凝らされた。

義太夫節におけるコトバは、歌舞伎では俳優がセリフとして言うが、市川猿之助の発案で、密回避のため省略された役柄のセリフを竹本が言うことになった。本来の役割のほかに「勘平腹切」の狩人や「山科」の小浪のセリフまで受け持たされ、私を狙って四台のカメラが様々な角度から撮影するのは異様であった。理屈を超えた歌舞伎演出に竹本は実に便利な存在ということを改めて思い知らされた。

中村吉右衛門丈は一谷嫩軍記を基に「須磨浦」という作品を一人芝居の形式で構成なされた。観世能楽堂で演じたものを収録し、映像配信された。これにも作曲・演奏で参加した。

吉右衛門丈演じる熊谷以外の登場人物(義経・敦盛実ハ小次郎・平山)は竹本によって語られた。厳粛な能舞台で吉右衛門丈を相手に語りかける：しかも途中止めずに通して演じるというのは、大変な精神的圧迫であった。吉右衛門丈の気迫は凄まじく、視聴者より大絶賛された。私にとっても意義深い作品となった。

八月より歌舞伎座、十月より国立劇場の歌舞伎公演が制約付きで再開されたが、コロナ禍は未だ出口が見えない。近世期に幕府の弾圧を受けながらも、歌舞伎の実演家はあの手この手を使い、したたかに芸能活動を継続してきた。その精神が今も受け継がれ、リモート歌舞伎の作品が生まれたのだと私は思う。

この原稿を書いている十月の時点では、劇場の「安全・安心」の企業方針から、演奏家は覆面マスクをして演奏している。義太夫節は激しいイキの芸能なので、語っていて目まが起きそうになる。：早くマスクが取れる日が来て欲しいと願っている。

(歌舞伎義太夫 太夫 竹本葵太夫)

国立劇場の養成事業 心と技を伝えた五〇年

昨年は国立劇場による歌舞伎俳優養成開始五十周年の節目にあたり、国立劇場伝統芸能情報館一階の情報展示室で、「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた五〇年」と題した企画展示が行われています。

当時は伝統芸能分野の後継者不足が深刻化し始めていましたが、養成事業はその後、歌舞伎音楽（竹本・鳴物・長唄）、大衆芸能（寄席囃子・太神楽）、能楽（三役）、文楽、組踊と広がり、課程を修了した研修生が、いまやさまざまな分野における屋台骨を支える貴重な人材として活躍しています。

また伝統芸能に触れる機会が少なく直接師匠に入門する人が激減している現在においては、五十年前よりさらに意義深い事業になつていえると言えるでしょう。

当展示には竹本研修発足時からの講師であつた竹本越道の懐かしい写真もあり、研修生初の人間国宝となつた竹本葵太夫の特設コーナーには、国宝認定書のほか、養成修了書や研修生時代の写真が、また研修で使われている楽器や資料、研修発表会のプログラム等も並ぶ大変充実した企画となっています。

義太夫協会は養成事業の初期から協力しており、現在では竹本駒之助、竹本葵太夫をはじめ数名が講師として、竹本研修生および歌舞伎俳優研修生の指導に当たっています。こちらの会期は一月二七日（水）まで、入場無料です。ぜひ皆様もお運びください。

連載 名優と義太夫師

【第三回】十三代目片岡仁左衛門

近年の義太夫役者として高名な十三代目仁左衛門は、父である十一代目の広い交流から、一流の人々による英才教育を受けた。長じて

関西歌舞伎不振の中、「仁左衛門歌舞伎」を主宰して孤軍奮闘し、晩年に演じた「道明寺」の菅丞相は神品と評された。

十一代目は「萬松軒」という号を持ち、義太夫節もよく語つたという。大変皮肉な人で、「沼津」の平作で「わしやこなさんの手にかかつて死ぬるのじゃない」（床を見て）あの下手な太夫の手にかかつて死ぬるのじゃ！」と舞台で言つた話は有名である。また、ある日竹本を呼び付けて何か注文かと思つたら「太夫、襟が汚れている！」…潔癖症だららしい。

豊竹山城少掾はもとも十代目仁左衛門の弟子で、片岡銀杏（ぎんなん）を名乗つて子役に出ていたが、白粉を付けるのが嫌で太夫となつた。二代目竹本津太夫への入門には十一代目が仲介したという。このとき食客として面倒を見たのが、後に十一代目専属の竹本となつた野澤吉十郎。十一代目は「吉十郎でない」と出演しない」と高給を取らせて厚遇した。俳優と竹本の理想的な関係である。

十三代目は吉十郎から義太夫三味線の手ほどきを受けたが、二代目豊竹古靱太夫と三代目鶴澤清六による「勘作住家」のレコードに魅せられ稽古を願ひ出た。しかし吉十郎は受けたものの少しも先へ進んでくれない。困つた仁左衛門が父に相談したところ、「そのような難曲ではなく、分相応に平易な野崎村あたりを頼んでみなさい」と助言され、そのようにすると、翌日からサクサクと教えてくれたという。

筆者は仁左衛門の三味線の演奏を聴いたことはないが、歌舞伎公演の稽古場で、竹本連中に対して「エッ！」と掛け声をしながらよく指遣いを示していた。岩波映画の「菅丞相」に遺つてゐる通りである。若手俳優の指導に臨席すると、竹本と一緒にいわゆるエア三味線を弾いた。要領のよい三味線方は、主演俳優の動きより、指導にきている仁左衛門の指先を見ながら弾くと駄目が出ないことを発見した：という笑い話もある。「山科」で、由良助が虚無僧姿に着替えるツナギのメリヤスを三味線方に注文したが要領を得ない。「旦那、弾いて聞かせとくなはれ」と三味線を渡すと即座に弾いて聞かせたという。

晩年は視力を失つたので舞台のモニターをよく聴いた。筆者が「尼ヶ崎」を勤めていると、それを聴きながら「違ふな」と毎日つぶやくので、付人から「葵さん、旦那に尋ねてみたら」と奨められ伺つた。その公演では三味線方が、水上げ兼ねし風情にて「の三味線の手をツン：ツン」と弾いていたが、仁左衛門の記憶では「ツツツン」であるという違いであつた。「あんたは偉い。こうして訊きにきてくれたから、ぼくの憶えているのを聞かせてあげる」と「湯殿口」まで半段の竹本部分を宙で語つてくださった。順も違わず、詞章に詰まることなく語られたあと、「せっかくだからもういっぺんやります」と二度聞かせてくれたので恐縮した。

「旦那が呼んでいます」と呼ばれて竹本連中が注文を聞きに伺うと、帰りにお駄賃とし

て、お菓子やみかんをひとつ取り分けてくださったという。

筆者も「桜丸切腹（白太夫）」「新口村（孫右衛門）」「野崎村（久作）」「宵庚申（半兵衛）」等を勤めさせて頂いた。「この頃の人はフシが延びる。延びんようにね」。不覚に声を痛めると「あのね、帰ったらお湯に砂糖をたくさん入れて甘う甘うして飲んだら治る」…と親切なお方だった。晩年は上品で紳士的な人柄であつたが、若い頃はなかなか厳しく、竹本連中への駄目出しも容赦なく、ある太夫はむかついて本を叩き付けて稽古場を後にしたという話も遺る。

最晩年は「この頃は役者も太夫も訛るから義太夫狂言にならない、私が目を瞑ったらどうなることか」と歌舞伎界の行く末を案じていた。子息の我當・秀太郎・仁左衛門のご兄弟はその遺志を継いで積極的に竹本に対しても指導してくださるので感謝している。

*文中敬称を略しました

（歌舞伎義太夫 太夫 竹本葵太夫）

■協会・正会員の主な動き■

令和二年一月～令和二年十二月

【公演】

※中止・延期となった公演は×印

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

一月二十日（月）お江戸日本橋亭

二月二十四日（月・祝）紀尾井小ホール

「ここから半年間、新型コロナのため公演中止」

×三月二十日（金・祝）お江戸日本橋亭

×四月二十日（月）お江戸日本橋亭

×五月二十日（水）お江戸日本橋亭

×六月二十八日（日）国立演芸場

×七月二十日（土）お江戸日本橋亭

×八月二十日（日）お江戸日本橋亭※若手勉強会演奏会再開

九月二十日（日）お江戸日本橋亭

十月二十日（火）お江戸日本橋亭

十月三十日（金）お江戸日本橋亭

十一月二十日（金）お江戸日本橋亭

十一月二十四日（火）お江戸日本橋亭

十二月二十日（日）紀尾井小ホール

正会員主催公演（協会後援分）

依頼公演・協力公演（*印）

「じよぎ」お江戸上野広小路亭 三月一・二日

日～五月から九月まで中止～十一月一・二日

「ぎだゆう座」お江戸上野広小路亭

二月一・二日～四月から八月まで中止～十月一・二日、十二月一・二日

×「横須賀女流義太夫演奏会」三月七日（土）横須賀芸術劇場ヨコスカ・ベイサイド・ポケット

×「第十五回花のように香れ 女流義太夫」三月十四日（土）

×「第十八回はなやぐらの会」橋本治さんを偲んで」四月五日（日）紀尾井小ホール

×「第五十回邦楽演奏会」三月二十九日（日）国

×「第五十回邦楽演奏会」三月二十九日（日）国

×「第五十回邦楽演奏会」三月二十九日（日）国

×「第五十回邦楽演奏会」三月二十九日（日）国

×「第五十回邦楽演奏会」三月二十九日（日）国

立劇場小劇場

×「源平布引滝・実盛物語」四月十一日（土）法真寺

×「女流義太夫本牧亭を聴く会」四月三十日（木）お江戸日本橋亭

×「義太夫さらなる試み」六月四日（木）お江戸日本橋亭

×「第十三回竹本土佐恵の会」九月二六日内幸町ホール

×「第十八回京の会」九月二七日（日）自由学園明日館講堂

×「第十八回竹本越孝の会」十一月五日（木）内幸町ホール

×「第三回竹本駒之助南あわじ市公演」十二月十三日（日）南あわじ市中央公民館

×「第三回竹本駒之助南あわじ市公演」十二月十三日（日）南あわじ市中央公民館

×「第三回竹本駒之助南あわじ市公演」十二月十三日（日）南あわじ市中央公民館

×「第三回竹本駒之助南あわじ市公演」十二月十三日（日）南あわじ市中央公民館

×「第三回竹本駒之助南あわじ市公演」十二月十三日（日）南あわじ市中央公民館

×「第三回竹本駒之助南あわじ市公演」十二月十三日（日）南あわじ市中央公民館

×「第三回竹本駒之助南あわじ市公演」十二月十三日（日）南あわじ市中央公民館

【普及】

義太夫協会主催教室

◆義太夫一日体験教室

二月十一日（火祝）芸能花伝舎

講師 竹本越若・鶴澤駒治

八月【中止】

◆第七三期義太夫教室

（入門コース）五月～七月【中止】

（実践コース）九月五日～十二月十九日（各土曜日）豊川稲荷文化会館

講師 竹本越孝・竹本越京・鶴澤三寿々

講師 竹本越孝・竹本越京・鶴澤三寿々

◆依頼事業

◆依頼事業

◆学校巡回公演…文化庁主催

「文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演事業―」(制作…古典空間)

「語ってみよう! 義太夫節!」

十月二日(木) 玉名高等学校附属中学校

十二月十四日(月) 壱岐市立芦辺中学校

十二月十六日(水) 佐賀市立赤松小学校

「三味線ナビ」

十月十二日(月) 熊野町立熊野第一小学校

十月十三日(火) 広島市立城山中学校

十一月五日(木) 三次市立吉舎中学校

【放送・放映】

◆BSフジ「人生宝談〜人間国宝と語る〜」

一月四日(土) 竹本葵太夫(歌舞伎義太夫)

◆NHK FMラジオ「邦楽のひととき」

一月十五日(水)『菅原伝授手習鑑』天拝山の

段 浄瑠璃・竹本越若 三味線・鶴澤賀寿

三月十八日(水)『生写朝顔話』宿屋の段

浄瑠璃・竹本越京 三味線・鶴澤三寿々

四月十五日(水)『伽羅先代萩』御殿の段

浄瑠璃・竹本綾之助 三味線・鶴澤津賀花

八月十九日(水)『増補菅原伝授手習鑑』松王

屋敷の段 浄瑠璃・竹本土佐恵 三味線・

鶴澤駒清

十月十四日(水)『仮名手本忠臣蔵』殿中刃傷

の段 浄瑠璃・竹本越京 三味線・鶴澤駒治

◆NHK FMラジオ「邦楽百番」

一月十八日(土)『源平布引滝』実盛物語の段

浄瑠璃・竹本駒之助 三味線・鶴澤津賀寿

十二月二六日(土)『近頃河原の達引』堀川猿

廻しの段 浄瑠璃・竹本駒之助

三味線・鶴澤津賀寿 ツレ・鶴澤寛也

◆NHKラジオ第一 新日曜名作座『渦 妹

背山婦女庭訓 魂結び』六月二一日・二八

日・七月五日・十二日・十九日・二六日(各

日曜、全六回) 三味線・鶴澤三寿々

◆NHK Eテレ「につぼんの芸能」

十月三十日(金)

『小栗曲馬物語』浄瑠璃・竹本駒之助

三味線・鶴澤津賀寿・鶴澤三寿々

『三面椀久』浄瑠璃・竹本駒之助・竹本土佐

子・竹本京之助 三味線・鶴澤津賀寿・鶴

澤三寿々・鶴澤津賀榮

【文化芸術活動の継続支援事業】

令和二年七月、文化庁が文化芸術関係者・

団体に対し、支援事業を開始しました。

これは、新型コロナウイルス感染症拡大の

影響により、自粛を余儀なくされた活動の再

開・継続に必要な経費を支援する助成金形式

の事業です。

募集期間は左記の通りです。

第一次募集…令和二年七月十日〜三十一日

第二次募集…令和二年八月八日〜二十八日

第三次募集…令和二年九月十二日〜三十日

第四次募集…令和二年十一月二十五日〜十二

月十一日

申請方法は、日本芸術文化振興会より認定

された「事前確認認定団体」に申請資格認証を

依頼します。「事前確認認定団体」は、申請希望

者が補助の対象となるかどうかを確認し、条件を満たしていた場合は確認番号を発行します。申請者は、その確認番号をもって申請作業を行います。

義太夫協会は、「事前確認認定団体」として、令和二年十一月二六日時点で二十件の承認をしました。

■協会・正会員の今後の動き■

令和三年一月〜六月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

一月二十日(水) 昼夜二回公演、昼公演は

伝承者研修発表会 お江戸日本橋亭

二月二一日(日) 義太夫協会法人化五十周

年記念公演 紀尾井小ホール

三月二一日(日) お江戸日本橋亭

四月二十日(火) お江戸日本橋亭

五月二十日(木) お江戸日本橋亭

六月二十日(日) お江戸日本橋亭

「本牧亭を聴く会」(お話と音源再生)

四月五日(月) お江戸日本橋亭

正会員主催公演(協会後援分)

依頼公演・協力公演(*印)

「ぎだゆう座」お江戸上野広小路亭 二月一・

二日、四月一・二日、六月一・二日

「じよぎ」お江戸上野広小路亭 三月一・二

日、五月一・二日

「第十回乙女文楽公演」一月二三日(土)・二
四日(日) 川崎市国際交流センター

「第十五回花のように香れ 女流義太夫」二月

二三日(火祝) 蔵市立文化ホールくるる*

「第五回瑠璃の会」三月六日(土) 国立文楽

劇場小ホール

「邦楽演奏会」三月二十日(土) 国立小劇場

「第十八回はなやぐらの会」四月四日(日)

紀尾井小ホール

「横須賀女流義太夫演奏会」五月八日(土)

横須賀芸術劇場ヨコスカ・ベイサイド・ポ

ケット

【普及】

義太夫協会主催教室

◆第七三期義太夫教室

実践コース(後期)一月九日～三月六日(各
土曜) 豊川稲荷文化会館

〈卒業発表会・卒業生演奏会〉三月十三日(土)

スペースFS汐留

◆第七四期義太夫教室 入門コース

【放送】

◆NHK FMラジオ「邦楽のひととき」

一月十三日(水)『源平布引滝』実盛物語の段
浄瑠璃・竹本越若 三味線・鶴澤賀寿

■寄付・寄贈■

左記のご寄付・寄贈を頂戴いたしました。
誠に有難うございました。

竹内久様

坂本久悦様

竹本谷太夫様 床本・稽古本一式

■特別会員新規入会■

赤尾敏夫様・鯖美庵様・宮下孝弘様・
渡辺謙治様

義太夫協会法人化五〇周年記念公演

2月21日(日) 13時開演

料金 4,000円 紀尾井小ホール

○長生殿

竹本越京・竹本綾一・竹本京之助

鶴澤三寿々・鶴澤津賀榮・鶴澤津賀花

望月太左衛社中

○姫山姥 廓嘶の段

竹本駒之助 鶴澤津賀寿・鶴澤賀寿

○新版歌祭文 野崎村の段

竹本越孝・竹本土佐子・竹本綾之助

竹本土佐恵・竹本越若・竹本佳之助

鶴澤寛也・鶴澤駒治・鶴澤弥々

〈本公演は後日

有料配信を予定しています〉

会報編集委員／鶴澤寛也・竹本佳之助

鶴澤津賀花・竹本駒佳・竹本越里

永谷の演芸場は

日本の伝統芸能を応援しています

◆お江戸日本橋亭

◆お江戸上野広小路亭

◆お江戸両国亭

◆新宿永谷ホール(Fu-)

永谷商事株式会社

☎0422(21)1796

公式HP: <http://www.ntgp.co.jp/>

